

配置計画まとめ



外部動線計画

メインとなる西側からの動線と、東側道路からの動線が外部からのアクセス動線となる。敷地内に入ると、いったん広場で受ける形となり、南側から建物に誘導する。建物への主要な出入口を賑わいのある南側とすることで、誰もが立ち寄りたくなる動線としている。西側道路から見えるのは建物の正面ではなく、広場や賑わいの場が施設の顔となり利用者を向かい入れる計画としている。

広場について

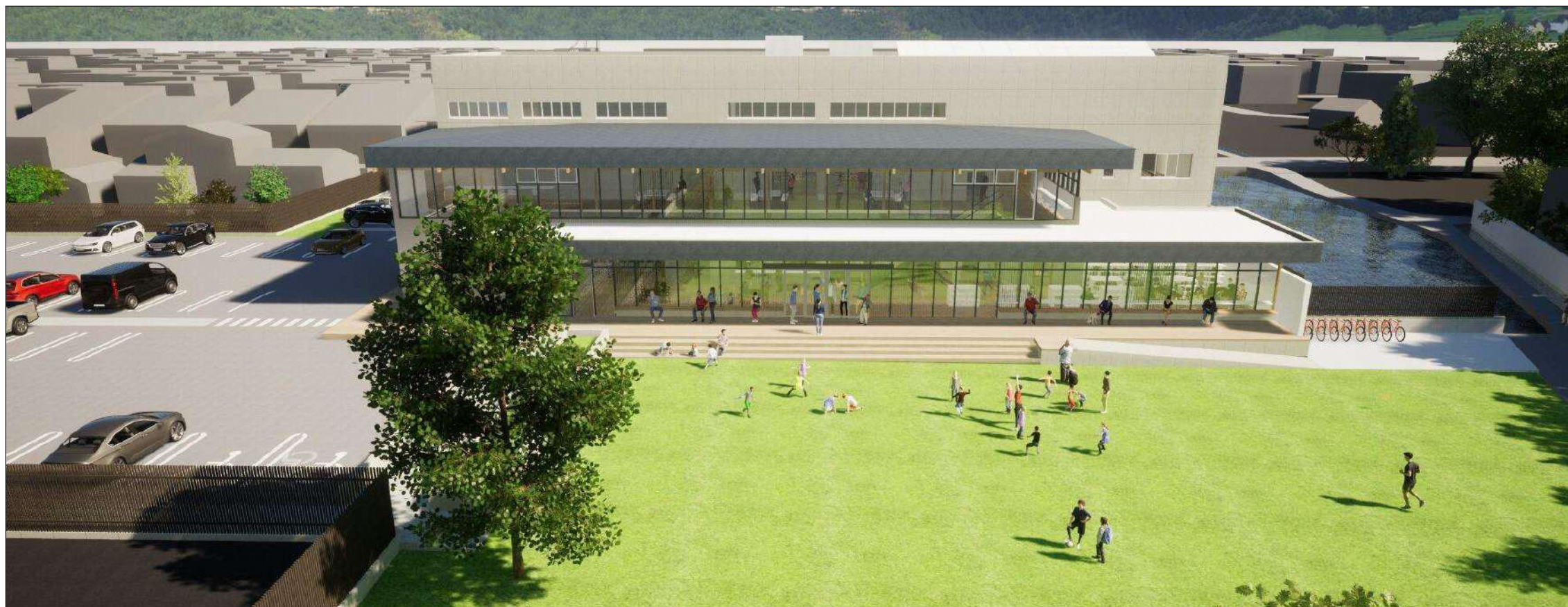
広場は、見通しの効く、地域住民が見守ることのできる配置とした。また、自動車が通らない東側路地にも広く面することでアクセスしやすい計画としている。駐車場と広場との間には60cmほどの段差と植込込みを配置し、飛び出しなどを防止することで、安全性に配慮している。現ちびっこ広場も利用率が高いため、さらに芝生や遊具なども備え遊び場として行ってみたくするような設えとする。

共用部とえんがわ空間について

南側に大きく配置した広場と専用部分（大ホールなど）の間に、明るく開放的な共用部と、その外側に気軽に立ち寄りことのできるえんがわ空間（まちのえんがわ）を配置した。広場→まちのえんがわ→明るい共用部→専用部分と段階的に空間を隣接させることで、内外を連続的に認識することができるため、各々の利用者のニーズに合わせた交流の場を選ぶことができる空間としている。また、共用部は間口いっぱいにつますぐに配置することで、利用者にとってわかりやすい計画となっている。

内外一体利用

祭りなどイベント時や、災害時には、前述のそれぞれの空間に一部大開口を設け、内外を一体的な大きな空間として利用出来る計画とする。



駐車場側からまちのえんがわを見る。  
西側道路からは建物の正面ではなく、えんがわ空間や広場の賑わいの場が見える。

広場側からの鳥瞰

広場とえんがわ空間は気軽に立ち寄りことのできる交流の場として機能する。



各部詳細



南側外観：広場側に開いた施設。軒を深くして日射遮蔽し、Low-E複層ガラスを採用することで、環境負荷を抑える。



西側外観：正面に広場とえんがわの賑わい空間を見ることができる。西側の開口には縦型ルーバーを設置することで、西日を遮る。



エントランスホール：エントランスから入ると正面に大ホールが見える。大ホールのスライディングウォールを開け放つことで共用部と一体的に使うことができる。



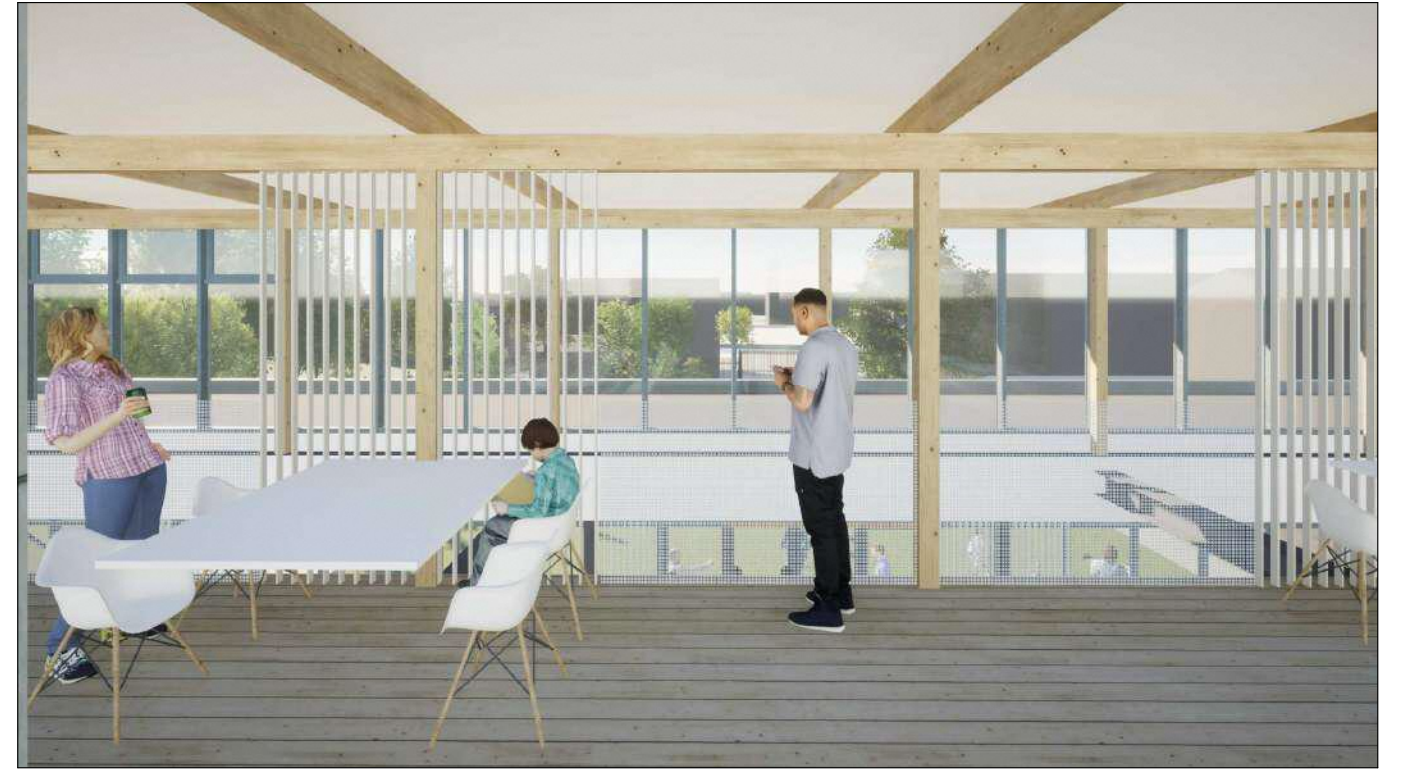
サロンから図書室側を見る。：エントランスホール、サロン、図書室は一体的な共用空間とし、開放的で快適性の高い交流の場とする。



各部詳細



図書室：気軽に利用できる図書室は、カウンターや机を備え、中高生の自習スペースとしても利用できる。北側には、中庭越しに子育て支援施設の様子を伺うことができる。



2階ホール：2階ホールにも利用者が自由に使うことができるカウンターや机を設置。南側広場の様子を見ることができる。木造の構造フレームは、シンプルでありながらスケールの変化による特徴ある空間を作り出すことができる。



2Fサロン：2階北側に共用部を配置。会議室の休憩スペースとしても機能する。



北側外観：敷地の特性上、北側から施設の外観がよく見えるため、広域的に見て後ろを向いている建物に見えないように外観を整えた。鉄骨木造部分は金属サイディング、鉄筋コンクリート造部分はコンクリート打放し仕上とする。